

第九期決算報告

Table with financial data for the 9th period, including assets and liabilities. Columns include '貸借対照表' and '資産之部'.

Textual report for the 9th period, mentioning '植田電気株式會社' and '取締社長'.

廣告

Advertisement for '植田電気株式會社' (Ueda Denki Kabushiki Kaisha) and '青山易斷所' (Aoyama Eidanjo).



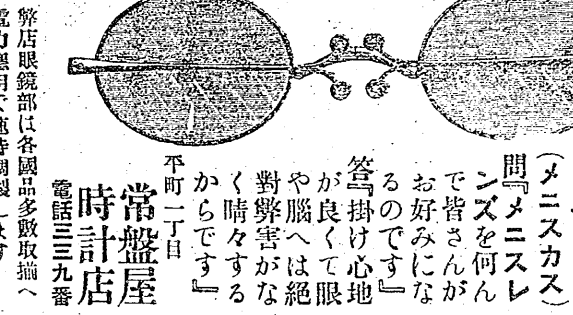
東京新聞 第七千二百三十三號 大正十三年十二月二十二日

發行所 東京市本町一丁目 電話二六六三番

刊夕日二十二月七

是非 粹上品な履物を 御求めの際は (番六五一話電) 目丁二町平

絶對はげぬ 染色の特色 井田服店 電話三三十八番



寄附者芳名廣告

List of donors and amounts for the 1st meeting, totaling 15,000 yen.

牛肉と葡萄酒 西村屋薬舗 電話二三三番

外交員募集 大谷保太郎商店 電話二三三四番

佐川洋服店 営業部 工場 (同町 南町)

品質の金庫は 東京荒木製に限り 高野得助商店 電話三二六番

株買中値

Table of stock prices for various banks and companies, including 警備銀行, 大谷保太郎商店, etc.

哈爾濱たより

寄書 在ハルビンY生 南滿洲鐵道の終点長春迄は...

發電所解決案は

總べての手續を完了

歸平せる青沼氏は縣社へ
額づいて何事か祈願
大瀧發電所の解決案をひつ
さげて出縣した調停者青沼
鋒太郎氏及び伊坂町長其他
の一行は昨日午後一時香坂
知事に面會せる結果小田炭
礦社長、野崎平電氣事務の
署名
調印を以つて大
瀧發電所許可取消を願ひし
同時に舊許可地に發電所設
置を願ひ總べての手續きを
完了した爲め香坂知事は
兩者の意志は充分に了解
せるを以つて速やかに合
法的の手續きを爲す故に
安心あるべしと述べ午後
九時
縣廳を 辭去した由
であるが青沼氏は一行より
一足先きに福島を出發昨夜
郡山に宿泊し本日午前八時
平驛に到着出迎への人々に
對して右の旨を傳へ直ちに
漆畑氏を訪問更らに水野郡
長伊藤署長を歴訪縣社子鐵
倉神社に詣でて歸宅し其他
の關係者も今明日中に歸平
する由

名勝地寫眞

攝政宮に献上

本縣に於ては近く攝政宮殿
下の行啓を機とし縣下名勝
地の寫眞を献上すべく目下
夫々各地に出張材料蒐集中
なるが石城郡よりは左記各
所を選定撮影の爲大高縣屬
は田村寫眞師同道廿一日來
平三日間の豫定にて滞在
である
一、仁井田浦 一、夏井
村兜塚 一、小川村地内
夏井川駕場瀧
因に献上寫眞は縣下を通じ
六十箇所である

各濱の賑ひ

列車は満員

命の洗濯と云ふので待ちか
まへてゐた丑の日も來たの
で農村の人達も町の人も競
つて濱に出かけたので石城
の海岸四倉町や小名濱町の
人出は夥しく臨時列車も普
通列車も乗りきれぬ有様で
あつたが小名濱は當日恰も
浴場びらき四倉は海岸は折
よく磯が引けて水も温かく
好日和でその他の海水浴場
も何れ劣らぬ賑さであつた

江名濱の

鯉節を献上

本縣では攝政宮殿下還啓の
際お土産品として鯉節を献
上し奉る考へで供奉員一同
にも贈呈する事に内定し鯉
節六十節の調製方を石城郡
江名濱漁業組合に下命した

赤井坑の慘狀

爆發し

石城郡赤井坑福島炭礦新三
坑にて昨日午前十一時頃同
炭礦坑夫宮城縣生れ佐藤清
獄中に在りて雖も
愛町の赤誠に燃えて
一同無事との書信を寄す
石井東日通信員より詮證文
を徵せる事件に關し未決に
入監中なる大工町衛生區長
佐藤長藏氏より本社宛
拜啓今回の件に就ては色
々御厚配深く御禮申上候
一同無事に御座候に付御
安心被下度只此際心配致
し居り候は目的の問題如
何成行候哉御進行の事と
は察し申候へご尙益々御
突進願上候皆々御願申上
候左に一首
己が身はあの水源地に
埋むとも止めず置かば
や電の業
この來信り獄中に在りて雖
も一片愛町の赤誠に燃ゆる

日射病の豫防法

カテイラン

普通はあつて云ひますが
あれは多く體力の不足によ
り起るもので、身體の衰弱
榮養不良、睡眠不足、水分
不足等の場合に、長時間強
烈な日光に暴露すると起る
もので、外出の際多量の飲
料水をとること、できるな

沿岸に近づく

潮の方向變る

昨今に於ける本縣の鯉漁は
何れも漁場が遠く沖合百七
八十哩の地点に在る爲め沿
岸には影を見せず従つて釣
獲頗る
困難を 極めて居る
殊に本縣の鯉節は何れも規
模小さく本年の如く卅時間
航海を續くるに非ざれば鯉
群に遭遇せざる時に於ては
成績が思はしくなく石城海
岸の漁民は一兩日來潮が沖

火傷の手當法

募集文藝其他一般投

をうながすがやうにするがよ
ろしい
一寸したやけどなら胡麻油
かすき油をぬつてその上御
飯粒をねつてはつておいて
よろしい少し大きいのなら
れば豆腐を絞つて水を去り
凡そ一割位の小麥粉をませ
て五分位の厚さに布に延て
はり二時間位で取り替へ升

常磐片々

福島より歸平せる青沼氏子
鐵倉社頭に何事かを祈願
同氏の心中深く決する處あ
り
今後平町に平穩の日續かん
町民は是れにて一安心
マヅ水道の水でも浴びて一
汗流しませう
平局の
寄附
電話抽籤
架設數十一一
平局に於ける本年度寄附開

秋蠶は

掃立を遅らせよ

桑の發育と掃立が一致併行
するか否かと云ふことは秋
蠶飼育の豊凶の岐るゝ所で
あるのはいふまでもなく本
郡の初秋蠶が概ね本月下旬
若しくは來月上旬に互つて
掃立らるゝ例に徴し桑の發
育が果して何うかと云ふと
刈取後高温、乾燥が持續し

早魁の被害

水田千四十町

八頭である
石城郡各町村水田早魁被害
反別は千四十八町歩の見込
で小名濱の百町を筆頭に各
村共晝夜兼行で水くみに努
力してゐるが割合に郡内で
困らぬのは山の手と小川江
筋の方面である

放火狂

茨城縣で逮捕

石城郡川前村大字小川字前
の内王城炭礦測量係員辻廣
(三)は精神に異常を呈し去
月十九日午後七時頃同村字
三河字提臺五九櫛田菊次郎
方の軒下に積んであつた薪
に放火し逃走して行衛不明
となり平署で各地に手配し
搜索の處此の程茨城縣太田
警察署の手に舉動不審とし
て取押へられ平署に護送さ
れた

募集文藝其他一般投

募集稿を募集します

をうながすがやうにするがよ
ろしい
一寸したやけどなら胡麻油
かすき油をぬつてその上御
飯粒をねつてはつておいて
よろしい少し大きいのなら
れば豆腐を絞つて水を去り
凡そ一割位の小麥粉をませ
て五分位の厚さに布に延て
はり二時間位で取り替へ升

日射病の豫防法

カテイラン

普通はあつて云ひますが
あれは多く體力の不足によ
り起るもので、身體の衰弱
榮養不良、睡眠不足、水分
不足等の場合に、長時間強
烈な日光に暴露すると起る
もので、外出の際多量の飲
料水をとること、できるな

沿岸に近づく

潮の方向變る

昨今に於ける本縣の鯉漁は
何れも漁場が遠く沖合百七
八十哩の地点に在る爲め沿
岸には影を見せず従つて釣
獲頗る
困難を 極めて居る
殊に本縣の鯉節は何れも規
模小さく本年の如く卅時間
航海を續くるに非ざれば鯉
群に遭遇せざる時に於ては
成績が思はしくなく石城海
岸の漁民は一兩日來潮が沖

火傷の手當法

募集文藝其他一般投

をうながすがやうにするがよ
ろしい
一寸したやけどなら胡麻油
かすき油をぬつてその上御
飯粒をねつてはつておいて
よろしい少し大きいのなら
れば豆腐を絞つて水を去り
凡そ一割位の小麥粉をませ
て五分位の厚さに布に延て
はり二時間位で取り替へ升

常磐片々

福島より歸平せる青沼氏子
鐵倉社頭に何事かを祈願
同氏の心中深く決する處あ
り
今後平町に平穩の日續かん
町民は是れにて一安心
マヅ水道の水でも浴びて一
汗流しませう
平局の
寄附
電話抽籤
架設數十一一
平局に於ける本年度寄附開

秋蠶は

掃立を遅らせよ

桑の發育と掃立が一致併行
するか否かと云ふことは秋
蠶飼育の豊凶の岐るゝ所で
あるのはいふまでもなく本
郡の初秋蠶が概ね本月下旬
若しくは來月上旬に互つて
掃立らるゝ例に徴し桑の發
育が果して何うかと云ふと
刈取後高温、乾燥が持續し

日射病の豫防法

カテイラン

普通はあつて云ひますが
あれは多く體力の不足によ
り起るもので、身體の衰弱
榮養不良、睡眠不足、水分
不足等の場合に、長時間強
烈な日光に暴露すると起る
もので、外出の際多量の飲
料水をとること、できるな

沿岸に近づく

潮の方向變る

昨今に於ける本縣の鯉漁は
何れも漁場が遠く沖合百七
八十哩の地点に在る爲め沿
岸には影を見せず従つて釣
獲頗る
困難を 極めて居る
殊に本縣の鯉節は何れも規
模小さく本年の如く卅時間
航海を續くるに非ざれば鯉
群に遭遇せざる時に於ては
成績が思はしくなく石城海
岸の漁民は一兩日來潮が沖

火傷の手當法

募集文藝其他一般投

をうながすがやうにするがよ
ろしい
一寸したやけどなら胡麻油
かすき油をぬつてその上御
飯粒をねつてはつておいて
よろしい少し大きいのなら
れば豆腐を絞つて水を去り
凡そ一割位の小麥粉をませ
て五分位の厚さに布に延て
はり二時間位で取り替へ升